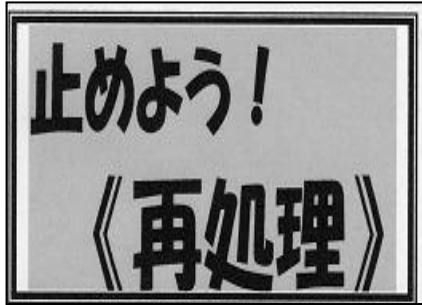


三陸の海を放射能から守る
岩手の会 (略称) 三陸の海・岩手の会
郵便振替 02240-5-102650
ホームページ 《再処理 / 岩手の環境》
再処理/岩手の環境/RI 廃棄物
(coocan.jp)
《本紙の全バックナンバー掲載》



《天恵の海》
2023(令和 5年)
12月8日
第252号
編集事務局 S.Oshida
TEL・FAX 019-623-1636

脱原発政策実現全国ネットワーク 10・3 省庁・全国市民・議員の院内集会

岩手からの 参加報告 その2

原発は 順次廃止せよ

絶対に事故を起こしてはならない

国の避難計画は非現実的だ

放射能漏れ想定、福島事故の100分の1

第3部 シンポジウム



大石さん、武藤さん、中島さん、マシオン、山崎、笹井、福島さん

十月三日、衆議院第一議員会館において開催の、「原発・核燃料サイクルの中止を求めて、省庁担当官・市民・議員の集会」では、第三部として、市民と国会議員のパネルディスカッションが行われました。

明らかにされたのは、国の原子力事故避難防災計画は、福島事故の百分の一の放射能漏れを想定したものでしかないことです。どんな事故が起きてもすべて人の命を守る「避難の権利」「生きる権利」が確保されなければならないと語られました。

市民団体 パネラーの発言

避難訓練の有り方

守田敏也さん(司会)

私は丹波篠山市と滋賀県米原で原子力防災のアドバイザーを務めています。国の言う「原子力防災計画」はあまりにひどい。地方自治体の核防災の認識は、「国が指示した百テラベクレルの放射能漏れで原発事故避難計画を作ればよい」とするものです。実際は、福島事故の放出放射能はその百倍でした。そして更田前原子力規制委員会委員長は国会で、福島事故並みの放射能放出も視野に入れていると語っています。「三十〇圈内退去」どころか、「百七十〇圈内退去、国外避難」まで議論しなければならぬ現実を自治体や市民の側はしっかりと認識しなければなりません。

福島事故では安定ヨウ素剤の準備が不十分で、県は急遽一三六万

武藤類子さん(福島県)

福島事故では安定ヨウ素剤の準備が不十分で、県は急遽一三六万

錠を確保したが、受領し配布したのは三春町のみでした。現在三一人の小児甲状腺ガンが確認されていますが本当に残念な事です。

マシオン恵美香さん(北海道)

原発防災避難訓練視察団に加わって実態を知りました。半年近く雪に閉ざされる北海道各地の避難は、吹雪や豪雪により漁船も利用できない悪天候が予想されます。バスも自動車も渋滞でストップ。そもそも泊原発から二〇〇万人都市の札幌までは約四〇〇キロで危ない。マンパワー不足で原発は老朽化し、再稼働すれば重大事故の恐れがあります。

中島哲演さん(福井県)

多数の原発があるが三〇〇圈内住民への避難指示が出る基準の初期値は500BqSv/時。これは放射線管理区域の0.6BqSv/時に比べ、八百倍もあり論外です。事故で放射能が漏れ出す前に住民の避難が必要であり、即時避難を勧告する体

制とすべきです。

大石光伸さん(茨城県)

国の「原子力災害対策指針」はその目標を「放射線による住民等への健康影響の発生防止・低減」とされています。しかし、放射線には国際的に了解されているように閾値がないのです。原発事故による被曝対策は「一人たりとも被曝させてはならない」という原則で行うべきです。東海第二原発事故が起きた場合、被害は首都圏に及び、さらに再処理工場も危険となります。

国会議員の パネラーの発言

国会でのしっぺ返し した審議を

山崎誠さん(立憲)

市民の皆様の質問やご意見はまっとうな内容であるのに、本日の省庁の担当者の回答はどうしようもなく不明瞭で噛み合わなかった。これは、国の原発推進

策が完全に破綻状態にあるからです。過酷事故を想定せざるを得ないのに、最新の科学に沿っていない。原発だけでなく、再処理工場の事故防止については議論にもなっていない。

岸田内閣は「GX」といいながら、原子力基本法を改正して、原発企業の救済を国の責任としました。国会で、電力会社の既得権益のためではなく、国民の命と利益を守るための議論を追求したい。

笠井亮さん(共産)

原子力災害からどう国民を守るのか。国会で正面から議論しなければならぬ時が来まされた。核燃サイクルが破綻し核のゴミも処分出来ず、原発は究極の高コストであるにもかかわらず再エネを捨て原発にしがみつくと。原発推進の政治に審判を下し、原発ゼロ、再エネで雇用、経済も盛り立つという方向で共にがんばりたい。

福島みずほさん(社民)

現在の避難訓練のや

り方では事故の時逃げられない。伊方原発の避難訓練を見たことがありますが「晴れているが海がしけており船は出せない」でした。

原発を再稼働させないのが一番ですが、命を傷つける原発、核政策の構造そのものを止めてゆくように、全国各地の人々と手をつなぎ国会の場面ががんばってゆきたいと思えます。

パネラーの 意見交換

「避難の権利」を 学習しよう

マシオン恵美香さん

今日は寿都町の議員選挙の投票日。原発政策など国の重要案件について、首長や地方議会の判断だけでなく、住民投票により地元民の意見を関与させる制度とその運用がほしい。

守田敏也さん

原発事故は巨大なものになります。だから十分な安全管理をという議論が多かった。で

も事故が起こったら終わりではなく、それでも「とにかく逃げよう」なのです。命を守る避難の議論も重要です。

山崎誠さん

民主党政権では、事故は起きないという神話の中にありました。スピーディーのことも国会議員は知らなかった。これからは「想定外」ということはあり得ません。福島事故を真正面から受け止めた議論を進めたい。

武藤類子さん

今日の省庁ヒアリングには、若い担当官が多かったが、彼らは3.11の実態をどれだけ知っているだろうかと感じました。例えば「セシウム換算一〇〇テラベクレルの環境放出」とはどんな事態なのか、本当にわかっているのか、

中島哲演さん

脱原発について、人間としての倫理的問いかけが必要です。先日宗教者約二〇〇人を原

告とし日本原燃を被告として東京地裁に訴状を提出しました。日本の一〇の電力会社の原発の使用済み核燃料を青森県の六ヶ所工場に集中して押しつけている。宗教者の提訴は、都市住民を含め日本人全体の問題として考えるためです。

大石光伸さん

何故田舎ならよいのか。原発が危険な事は彼らもよく知っており、都市部の人口密集地では特に避難が難しい。田舎の土地は買収しやすく押し付け易い。その差別の発想が問題です。

会場からの発言

Aさん

国民は、核の問題を命を守る観点から真剣に考えて欲しい。プルトニウムが子供の歯から検出されるといふことは何なのか？

Bさん

原発をやめますか？日本をやめますか？海外まで避難を考えるとこるまで来てしまった。

Cさん

今日出席されている

立憲・共産・社民・れいわの方々に訴えたい。一つは「核燃サイクルは直ちに止める」という宣言。もう一つは六ヶ所工場に運ばれた使用済み核燃料を青森から引き揚げるという約束をどうするか」という問題についての方針。

Dさん

福島事故国会事故調の資料は全て国会図書館に依託された状態のままという。国会の力できちんとした形で公にして頂きたい。

守田敏也さん

私は福島原発事故が起こったとき、「とにかく逃げろ」という声が強かったと思います。国民みんなが万が一原発事故が起こったらどこに逃げるかを今のうちに考えておこう。命を守るのは当然の権利。この権利を大事にするところから脱原発運動は大きく発展すると思います。

池島美紀子さん

私の思いも同じです。今日話し合ったことを具体的な運動にしよう。